

2019.2.17 読売

小泉氏「自然エネルギー転換を」

小泉純一郎・元首相が16日、松江市の県民会館で講演を行った。脱原発の持論を展開し、約2100人が聞き入った。

島根原発・エネルギー問題県民連絡会などで行う実行委員会が主催。会場の大ホールに入りきらず、別室のモニターで講演を聞く来場者もいた。

講演で、小泉元首相は「日本の原発は安全だと言われていたが、東日本大震災（による原発事故）でおかしいと思い、原発の本を読み始めた」

松江 脱原発で持論

と現在の持論に至った経緯を説明。「原発ゼロで、自然エネルギーへの転換ができる時代に来ている。与野党が協力できる素地があるのに、なぜ政府は（脱原発に）立ち上がらないのか」と訴えた。

福島第一原発事故後、国の方針で脱原発を掲げ、自然エネルギーで3割超の電力を供給するドイツを例に挙げ、「日本は太陽光や風力などに恵まれている。（日本の電源構成で原発が占めていた）30%（を自然エネルギーに変えること）なんて10



年足らずで実現できる」と主張した。

熱弁をふるう小泉元首相（松江市で）